

## 研修レポート

研修医 2 年次 宮永達人

今回のニューヨークでは、医学英語を含めた英語での問診の仕方を Pace university の Ms.Janis から教えてもらったり、同じく Pace university の別キャンパスで実際に Broadway などで活躍されている俳優さんに模擬患者をしてもらい、主訴にそって問診と身体診察を行う Simulation を行いました。ほかにも Mt.Sinai medical school を見学させていただいたり、同学校で研究室を構えている Dr.Morishita に研究内容である脳の可塑性について話し合いをしたり、Shadowing と呼んで実際にニューヨーク市で診療所を構えている日系医師やアメリカ人医師の仕事しているところを見学させていただきました。

印象的だったのが、アメリカでの仕事に対する姿勢と、システムについてです。日本では患者が多いと流れ作業になる場合もあるかもしれませんが、診察が完全に予約制で、患者一人一人と時間をとり症状を確認しながら、疾患について知識を共有した上で、医師が検査や治療を提案し医療を進めていってました。アメリカでは保険が通らなくて医療費の自己負担が高いためか、アメリカに住んでいる人は自分の健康に関心があり疾患の予防にも関心があり、減多なことがなければ医療機関を受診しないため一人一人に診察の時間を十分とれるのだと思いました。また結果説明をわざわざ医療機関で聞くのではなくメールや電話でしていることも印象的でした。

ニューヨーク研修を通して、日本以外の医療世界を見たことで自分の見聞が広がったし、また英語に対してさらに勉強するモチベーションとなりました。今後学会やグローバル化で日常診療でも英語が必要になる機会も増えると思うので、学んだことを今後に生かしたいと思います。